

# Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 1. マーケット・レート

			3月31日	4月1日	4月2日	4月3日	4月4日	Net Chg
<b>Forex</b>	USD/BRL	Spot	2,2690	2,2660	2,2690	2,2810	<b>2,2430</b>	-0,0380
	USD/YEN	Spot	103,22	103,70	103,88	103,93	<b>103,30</b>	-0,6300
	EUR/USD	Spot	1,3778	1,3793	1,3762	1,3717	<b>1,3706</b>	-0,0011
	BRL/YEN	Spot	45,45	45,84	45,78	45,58	<b>46,18</b>	+0,6000
<b>Swap</b>	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	0,87	0,87	0,97	1,01	<b>1,03</b>	+0,0260
		1Year(p.a.)	1,20	1,22	1,36	1,42	<b>1,46</b>	+0,0310
	Real Interest	6MTH(p.a.)	10,95	10,98	10,97	10,95	<b>10,94</b>	-0,0075
		1Year(p.a.)	11,39	11,39	11,34	11,27	<b>11,30</b>	+0,0328
<b>Stock</b>	<b>Bovespa</b>		50.415	50.270	51.701	51.408	<b>51.082</b>	-326,43
<b>Bond</b>	<b>CDS Brazil 5y</b>		167,00	171,00	167,00	169,00	<b>171,00</b>	+2,0000
	<b>Global 40</b>		113,325	113,400	113,150	113,300	<b>113,100</b>	-0,2000

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



## 2. 主要経済指標

## 3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	
自動車生産台数	--	271217	281452	なし
自動車販売台数	--	240808	259328	
自動車輸出	--	23408	28843	

## 4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2.2470 で寄り付いた。
- 週初はイエレン米 FRB 議長の講演を控えてリスク資産の売りが見られるとレアルは寄付き後 2.27 台半ばまで売られた。しかし同議長は、金融当局による前例のない景気刺激策が「当面」必要になるだろうと述べ、利上げ開始時期が早まるとの懸念が弱まる展開となり、レアルは 2.25 台前半まで買戻された。
- 翌 1 日には伯インフレ指数が予想を上回る結果となり、先物金利は大きく上昇したことを見てレアルはつられて買戻し優勢となった。更に大口の資金流入の噂からレアルは 2.25 台半ばまで続伸した。
- 週央にかけては伯金融政策委員会 (COPOM) を控えて様子見する投資家が多く見られ、レアルは 2.2700 を中心に小幅に推移した。マーケット時間終了後にブラジル中央銀行は COPOM で政策金利を 0.25 ポイント引き上げ、11%となつた。
- 翌 3 日には COPOM の結果を受けて次回以降の利上げの可能性が弱まったとの見方が強く、先物金利が大きく下落するとレアルもつられて売りが優勢となり、週間安値となる U\$1=R\$2.2890 を付けた。
- 週末にかけては米雇用統計が予想を下回る結果となつたことからドルが対主要通貨で急落、レアルは週間高値となる U\$1=R\$2.2350 を付けた後同水準で小幅に推移し、結局 U\$1=R\$2.2430 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧説を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

# Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
4/7	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	Mar	1.69%	0.85%
4/7	貿易収支(週次)	Apr 6	--	--
4/8	FGV CPI IPC-S	Apr 7	0.92%	0.85%
4/9	FIPE CPI-週次	Apr 7	0.76%	0.76%
4/9	IGP-M Inflation 1st Preview	Apr	--	1.16%
4/9	IBGEインフレIPCA(前月比)	Mar	0.85%	0.69%
4/9	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	Mar	6.08%	5.68%
4/9	Currency Flows Weekly			
4/10	COPOM Monetary Policy Meeting Minutes			

## 6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.23 – 2.28

今週は米 FRB 議長による講演がハト派的な内容となったことに加え、米雇用統計が予想を下回ったことから早期利上げ観測が後退、ドルは対主要通貨で大きく売り戻された。中でもレアルは他の通貨に比べて大きく反発し、5ヶ月振りに 2.2400 を上回った。国内では COPOM が開催され、食品値上がりに伴いインフレが 2 年連続で目標レンジを超えて加速したことを背景に 0.25% の利上げが見られた。声明では「金融政策の次のステップを判断するため、次回会合までマクロ経済シナリオの進展を注視する」とし、追加利上げの可能性の文言が削除された。SELIC 政策金利はルセフ大統領が着任した当時の水準まで戻っており、インフレがある一定範囲以内に収まればこれ以上の利上げは出来るだけ避けたい。本来なら利上げ観測が低下したことで先物金利は低下、レアル安傾向となるが、伯中銀はドル売り介入を全額供給したり、4月末に満期を迎えるドル売りスワップを全額ロールしたりと更なるレアル高を許容するような対応が見られた。政策金利を上げずにインフレに対応する方法としてある程度のレアル高を維持しようとしているのではないかと市場での思惑が強まっている。来週は国内では COPOM 議事録の発表、海外では FOMC 議事録の発表があり、レアル相場に大きな影響を与えることが想定され、ボラティリティーも引き続き高い展開となろう。